

STUDENTS

つくばスチューデント

2004年11月号



第28回秋季スポーツ・デー（陸上競技場にて）

新連載 21世紀のロボティクスを目指して

授業評価アンケート実施中

アンコウー茨城を代表する冬の味覚



筑波大学
University of Tsukuba

学生宿舎の問題点

星野 靖雄（社会工学類 学生担当教員）



大学の浴場の利用時間

筑波大学の学生に大学の問題点は何かと質問した。宿舎に入居していて、付属する浴場（銭湯）の使い勝手が悪いと言う。夏休みは5時から8時まで、学期中でも5時から10時30分であるという。実験系の学生なら、深夜まで実験室にいる必要があるし、論文を書くため実習室等で夜遅くまでパソコンで作業している学生もいることから、銭湯の開業時間はやはり短かすぎる。参考までに東京都内の銭湯の営業時間は午後3時、4時から11時、12時である。学生寮だから、これより遅くまでの営業時間の延長が望まれる。現在利用料金は170円で、都内の銭湯が400円であるので安いですが、営業時間延長に伴うコストの増加を考慮して若干の値上げもやむを得ないのではないかと思います。

発想を変えて、銭湯ではなく、シャワーの設置のほうがより良いかもしれない。キャンパスの近くには大型のコインランドリーや車用のコインシャワーがあるから、学内にもコインランドリーと個人用のコインシャワーとを併置すればかなりの利用者があるのではないかと。民間資本の活用で、国や大学が費用や管理活動を負担しなくても、よりよいサービスが可能であるといえる。（PFI事業も同じ考え方）

ハワイ大学の寮

筆者は今年ハワイ大学の学生寮に6日宿泊した。13階建ての何百人かの学生寮であり、学生の場合、利用料は月換算で671ドル、73,481円である。24時間受付があり、何時でもチェックイン、チェックアウトができる。受付から部屋のセクションへ入るドアと各部屋のドアは1枚のカードで開錠できるようになっている。また各フロアには掃除人、電気器具担当者、他の係の顔写真が張ってあり安全性に配慮されている。各部屋には、LANが入っており、すぐ持参のPCでネットに入れた。また、固定電話が

あり、学外、国外では宿泊料と同様にクレジットカードで支払いできるようになっている。シャワーは24時間利用できる。学生の共通のスペースとして、図書室兼談話室、テレビ室、キッチンと食堂そして各人の炊飯器や冷蔵庫が置いてあった。共通の冷蔵庫もあった。また、談話室の一部で、週末の夜などは無料の映画会を毎週のように開催している。

施設の利用料と使い勝手

筑波大学の宿舎の利用料には、土地・建物のコストはほとんど入っていない、個室月4,700円、共益費月7,140円の計月11,840円であり、個別の電気代や電話代基本料月3,000円（別途使用料）である。設備を修理維持する費用や新規の投資があまりなされていないのである。利用料をもう少し上げて、**よりよい施設にする必要がある**。「安かろう、悪かろう」というのは昔だけの話にしてほしいものである。もともと、新棟の356戸にはシャワーが設置されているが、これは、全体の約1割にすぎない。新棟は1人1年の利用という条件が付いているが差別的である。利用料金に差をつけるべきである。

筑波大学の宿舎ではネットの利用は固定電話の設置をしてからでないとできない。電話の設置も中央通信という会社が入っており、普通なら利用する学生とNTT間での契約だけで保証人はいらぬのに、宿舎での電話利用には保証人がいるという。今年になって2人の留学生が電話利用の保証人になってくれという。やむを得ずに、普通はならない保証人になった。教員までも巻き込む大学内だけの不都合なシステムは改善されるべきである。

米国州立のハワイ大学と国立大学法人の筑波大学との宿舎・寮の格差は歴然としている。国際化に対応して、諸政策を弾力的、積極的に展開してほしい。